

令和4年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立日新小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果は、昨年度に比べ、多くの項目で高い評価を受けることができた。学校の取組を発信していくことで、保護者・地域に理解してもらえ、保護者・地域・学校が連携し、児童の成長に向けたよりよい関わりができるようになった。 Aに達成しなかった項目については、その項目と具体的な改善策を明確にし、全職員で共通理解を図り、早急に実践していく。 今年度行った3部会での取組については、反省を生かし一つ一つの取組に対し全職員で共有し、全職員が妥協せずに取り組みことのできる日新小を目指す。 働き方改革については、限られた時間しかないことをや質の高い仕事をするを意識しながら、全職員が仲間と関わり合い、互いに言葉掛けをしていく。時間外勤務時間が45時間を超過している職員は、「意識して1日30分早く帰る」ことを目標に、時間外勤務時間削減を目指す。(1ヶ月10時間の削減)

2 学校教育目標	<p>ふるさとを愛し、心まことに行動する日新の子の育成 ～「あ・そ・べ・や」でみんな輝く 日新の子～</p> <p>あ…あいさつ そ…そうじ べ…べんきょう や…やさしい心 みんな輝く…一人一人のよさが輝く</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の充実 好ましい仲間づくりの促進 心身の「体力」向上
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

重点取組			中間評価	5 最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	達成度(評価)	実施結果			評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員75%以上	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	B	●教職員の意識調査で、マイプランの成果指標を達成したと答えた教員は92.6%で、昨年より9.9%向上した。「時間を守ってチャイムで立退いた」と答えた児童は92.6%で、「かつお」を認識して「チャイム音が守られている」と答えた児童が増えている。	A	●教職員間でマイプランを共有するために、掲示されたことに前向きな姿勢を感じ、評価大である。	●学力向上対策コーディネーター ●研究主任 ●反射炉部
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「算数アンケート」で、「算数の学習がよくわかる」「算数の学習が楽しい」と答える児童が75%以上	・めざす児童の姿を共通理解し、それを意識した授業を行っているか教職員間で授業を見合う。また、有効な手立てを整理し共有することで、授業改善を行う。	B	B	・「全員が授業に参加できる導入の工夫」や「自他の考えを共有し、解決する場の工夫」を意識した授業実践を全職員が行い、成果と課題について整理し、情報交換を行った。導入での「効果的な手立て」等が共有できた。	B	・マイプランの成果指標も向上し、情報交換も行われていて、児童のアンケートでも1日1回発言している児童が増えているとすばらしい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「優しい気持ちで友達に接した」と答えた児童80%以上	・児童の実態に合わせて学年、全校さわやかタイムを計画・実施する。	A	A	・さわやかタイムでは、5月は人権について、6・7月は平和学習を、9月は友達について学習した。	A	・特に「人権・平和学習」に関しては、正しく働くことを願っている。	●道徳教育推進教師 ●人権・同和教育担当者 ●藤の花部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	B	B	・「いじめの掘り出し、早期発見の大切さや対応の仕方について研修を行った。」 ・話し合う以外の職員とも連携できるように、話し合いができる時間を設定したい。	B	・人権・平和学習について、動画の視聴やゲームでの導入で、児童自ら考え行動できたことは、時代に合わせたすばらしい工夫だと思う。	
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童生徒70%以上	・大綱大会などのスポーツイベントを実施する。 ・昼休みの外遊びを推奨する。	B	B	・「毎日の給食時の放送で昼休みの外遊びを推奨した。気温が上昇した梅雨明けから7月にかけては、熱中症対策として暑さ指数(WBGT)を校内に掲示し、外遊びができる時間を設定した。」	B	・児童を対象としたアンケート調査により、1週間で420分以上運動した児童が80.2%で、成果指標を達成することができた。	●体育主任(保健主事) ●栄養教諭 ●食育推進担当者 ●少年の像部
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童が90%以上	・「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨する。年間6回程度、チェック習慣を設け、日々の生活習慣の振り返りをする。 ・毎月食育タイムの時間の中で、望ましい食習慣やマナーについて確認する。	B	A	・2年生と4年生でバランスよく食べることの大切さ・野菜の栄養について授業を行った。「早寝・早起き・朝ごはん」のチェック習慣を設け、取り組むたい。食育タイムも取り組むたい。	A	・「食の大切さ、そして、おいしく笑顔で食べることはすばらしい。」 ・食育について興味をもって、食の大切さを考えながら食べてほしい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・「毎日業務記録簿へ記入する職員は8割以上あり、時間外勤務を把握している。」 ・6月が授業研究や相模大会、フォーム開き等の行事が多くあり、時間外勤務時間が増えてしまった。 ・学年主任等に授業の準備を一掃し、帰る時に声を掛けたりするように協力を願いみんなで早く帰るような雰囲気作りを行った。	C	B	・「ほとんどの職員が、毎日業務記録簿に記入をし、自分の時間外勤務時間を把握している。行事等を踏まえて、自分のすべき業務を提出して計画的に仕事に臨む職員が増えた。」 ・学年等で業務を分担して、業務改善を行った。また、声を掛け合っって早く帰る姿が見られた。	B	・職員意識向上がみられる。個々がしっかりと教育委員会規則を理解しているようだ。	●教頭
	○(学校独自重点取組・任意)	○時間外勤務時間を意識して、早く帰宅するようにしたと答える職員が80%以上。	・定時退勤日の設定	C	B	・「定時退勤日の設定や毎週帰る時間を予告するボードを作成したりして、計画的に仕事を行うようになった。しかし、児童対応や行事等の準備で時間外勤務時間が減らなかった。」 ・10月に早く帰ろうキャンペーンを行ったことにより、早く仕事を終わらせることを意識する職員が増えた。	B	・学年等で業務を分担して、業務改善を行った。また、声を掛け合っって早く帰る姿が見られた。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			●学校閉庁日の設定		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言	
○特別支援教育の充実	○一人一人の児童を大切に指導・支援の充実	○学級の実態に応じて、意識した授業や教室環境のUD化に努めたと回答する教員が90%以上 ○支援を必要とする児童に具体的な支援を行ったと回答する教員が90%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・全職員での情報共有	B	B	・夏休みに事例研究して、配慮を要する児童への支援方法を話し合い、2学期の指導につなげた。 ・巡回相談での指導内容を共有したり、連絡会や子ども情報会で児童への関わり方について話し合ったりしている。	B	・児童の支援について、関心し合うことができたことは、評価大である。	●藤の花 ●特別支援Co

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>今年度は、保護者と職員のアンケートを2回行い、年度の途中でも取組の見直し・修正ができるようにした。結果においては、「開かれた学校」や「健康・体づくり」の項目において、1回目より高い結果を得た。しかし、達成度が80%満たない項目がまだあるので、これまで同様、学校の取組を発信していき、保護者・地域に理解してもらい、保護者・地域・学校が連携し、児童の成長に向けたよりよい関わりを行っていく。</p> <p>Aに達成しなかった項目については、その項目と具体的な改善策を明確にし、全職員で共通理解を図り、早急に実践していく。</p> <p>3部会(反射炉部、藤の花部、少年の像部)で、それぞれの達成行動目標を定め、三部長会等で進捗状況等を随時確認し、学校目標の達成に向けて取り組むことができた。次年度も三部長会や学年主任等会が連動し、学年・学級間で取り組みの足並みをそろえ、より組織的に統一された3部会を推進していく。</p> <p>教職員の資質向上においては、「わかる喜び」できる楽しさを味わい、学びに向かうとする児童の育成を目指し校内研究の全体授業研究会及び公開授業を行い、外部講師を招聘して資質の向上を図った。次年度は、さらに、「主体的・対話的で深い学び」に向かう児童の育成を目指して研究を推進し、教師力の向上を図っていく。</p>
----------------	--